西光寺だより

第七十一号　平成二八年　七月一日発行

梅雨の時期に入りました。雨の日が続きますが皆様いかがお過ごしでしょうか。

雨が続きますが、おかげで作物は育ち、すぐそこまで来ている夏に向かって、たくさんの水分を蓄えているようです。先日子供が散歩の途中でカタツムリを持ち帰ってきました。「つのだせ　やりだせ　あたまだせ」というカタツムリの歌のとおり、殻から頭を出し触角をのばす姿を久しぶりに観察することが出来ました。ゆったりと動くその姿は気忙しい人間社会とは全くの別物で、きっとカタツムリはカタツムリの時間を生きているのでしょう。

その姿はまるでこの梅雨時のしとしと降る雨にぴったり寄り添っているように感じます。

ご存じの方もいらっしゃるかと思いますがこの**梅雨**。梅雨の漢字の由来を語源由来辞典などで調べてみますと、梅雨は中国から梅雨（ばいう）として伝わり、江戸時代頃より（つゆ）とよばれるようになりました。両方の名が残っているというわけです。中国では黴（かび）が生えやすい時期の雨という意味で、元々「黴雨（ばいう）」とよばれていましたが、語感が悪いため、同じ「ばい」で季節に合った「梅」の字を使い「梅雨」とよばれたという説や、「梅の熟す時期の雨」という意味で、「梅雨」とよばれた説。この時期は「毎」日のように雨が降るから「梅」という字があてられたという説など。日本で梅雨（つゆ）とよばれるようになった由来も、「露（つゆ）」と考える説や、梅の実が熟し潰れる時期から、「潰ゆ（つゆ）」とする説もあり、未詳部分が多い。とのことであります。

「梅雨」の雨を身体で感じ、雨音を心で感じ、そして暑い夏をむかえる。その暑い夏を夏バテなく過ごすために梅干しなどで体調管理する。すっぱい梅の味と紫蘇の香りを感じながら人は人の梅雨の過ごし方を楽しみ、今年も暑くなりそうな夏を皆さんと一緒に乗り切りたいと思います。

●今月のことば●

今回は曇鸞大師でございます。親鸞聖人の教えは、七高僧の中でも特に今回の曇鸞大師と後で出てくる善導大師のお二人の教えが根幹となっているといわれています。

曇鸞大師は十五歳以前に五台山で出家され、四論・仏性論を学ばれました。そこで、病気になられ健康を保つため仙経を授かりましたが、菩提流支三蔵に出会い浄土教に帰依されました。先の天親菩薩の『浄土論』を註釈して、『往生論註』を著し「自力他力」を説かれ、他力の道を勧められました。

本師曇鸞梁天子・・本宗の祖師・曇鸞大師は、中国・**梁の国王**が尊敬し、国王は
常行鸞処菩薩礼・・常に大師のおられた北の方向に向かい「曇鸞菩薩」と礼拝された
三蔵流支授浄教・・菩提流支（インドの仏教学僧）から浄土教の経典を授けられ
梵焼仙経帰楽邦・・仙経を焼き捨て（梵焼）、阿弥陀仏の浄土の教えに帰入された
天親菩薩論註解・・天親菩薩の『浄土論』を註解して解説書『往生論註』を書かれて
報土因果願誓願・・お浄土に生まれる因も果も如来の誓願によると示された
往還回向由他力・・**往相回向も還相回向**も、他力の回向であると示された
正定之因唯信心・・お浄土に往生し、仏となるべき身に定まるのは信心一つである
惑染凡夫信心発・・まどいで汚染された人々（凡夫）は、本願を信じさえすれば
証知生死即涅槃・・生死の迷いのまま涅槃（さとり）であるという、仏果をうる身になり

必至無量光明土・・必ず、はかりない光明のお浄土に往生して仏となり
諸有衆生皆普化・・迷える人々を、皆すみずみまで救うといわれた

（法蔵館正信偈もの知り帳・レッツ正信偈参考）

【解　説】

●**梁の国王**・・中国六王朝の梁の初代皇帝武帝のこと。

●**往相回向も還相回向**・・仏教では自力回向と他力回向があります。回向とは差し向ける・与えるという意味で、自力回向は自分の行いを死人や神・仏などに差し向けるということで、他力回向は阿弥陀仏から私達に差し向けられることであります。その他力回向に二種の回向があり、それが「往相回向」（浄土に往生するすがた）と「還相回向」（浄土よりこの世に還り人々を救う）であります。お浄土に行くのも他力、還るのも他力であり、すべて阿弥陀仏のお力によるものであります。それを曇鸞は『往生論註』で明らかにされました。そしてお浄土からこの世に還りとは、親鸞聖人御遺言「一人でいるときは二人と思え、二人でいるときは三人と思え、その一人は親鸞だ」で示されたとおりであります。いつでも傍にいるということなのです。亡き人が、いつでも傍におられる還相回向のお心を深く感じることであります。

◆七・八月の行事◆

・八　月　十五日（月）

盂蘭盆会法要

午後六時～

西光寺本堂

◆先月の報告◆

①六月二十六日（土）十八時半より西光寺本堂にて西光寺役員会を行いました。先月より皆様にお配り致しました伝統奉告法要懇志について各垣内の役員の方々より懇志を集めていただきこの度集計を行いました。皆様のご協力のもとおかげさまで予定額の懇志になりそうであります。役員一同感謝の気持ちでいっぱいでございます。

御協力いただきました総代様・役員の皆様、そしてすべての皆様に感謝申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。

なお懇志は、受け付けておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

合　掌

浄土真宗本願寺派　白毫山　西光寺
大阪府茨木市西河原一―七―二
電話　〇七二―六二二―四七九四
FAX　〇七二―六二二―九二九一
http://www.osaka-saikouji.net/